

くりはら

市議会だより

第24号
2010.11.15

平成21年度
震災復興の決算を認定 2
一般会計補正予算を「否決」 4
先進地を調査 8
一般質問 20人が登壇 18
「私もひとこと」栗駒地区・高清水地区 20

全国へ広がれ
“レンコン掘り大会”

平成21年度 決算

震災復興の決算



9月定例議会は9月14日から10月7日までの24日間の会期で開かれました。

また、今回からは昨年までの常任委員会ごとの審査ではなく、初めて議員全員による決算特別委員会（議長を除く）で審議を行いました。

復興関係では、ハイルゲーム栗駒のリニューアル

アル工事、都市計画事業では市道「川北川南線」工事、また自動車関連産業の工場用地取得費用などを審査し、平成21年度の一般会計、特別会計、事業会計の決算は、すべて原案のとおり認定しました。



にぎわいを取りもどしたハイルゲーム栗駒



開通した川北川南線



八幡工場用地を取得

各種会計の決算状況

会計名	歳入決算額	歳出決算額	差し引き額
一般会計	462億4,299万円	447億1,131万円	15億3,168万円
特別会計	222億5,789万円	219億1,353万円	3億4,436万円
国民健康保険特別会計	87億5,334万円	86億769万円	1億4,565万円
老人保健特別会計	1,883万円	1,866万円	17万円
介護保険特別会計	68億9,441万円	68億5,108万円	4,333万円
後期高齢者医療特別会計	7億1,756万円	7億695万円	1,061万円
下水道事業特別会計	32億8,586万円	32億3,444万円	5,142万円
農業集落排水事業特別会計	3億2,094万円	3億1,092万円	1,002万円
合併処理浄化槽事業特別会計	3億8,018万円	3億6,460万円	1,558万円
簡易水道事業特別会計	14億4,387万円	14億735万円	3,652万円
診療所特別会計	4億4,290万円	4億1,184万円	3,106万円
合計	685億88万円	666億2,484万円	18億7,604万円

水道事業会計	
収益的収入	12億3,701万円
収益的支出	13億4,342万円
純利益（損失）	△1億641万円
病院事業会計	
収益的収入	67億345万円
収益的支出	69億3,499万円
純利益（損失）	△2億3,154万円

討 論

一般会計の決算認定について

反対 菅原 勇喜 議員

すべての財政支出を市民の暮らしを守る、地域経済の活性化という観点で執行することを求める。一例であるが、国保税負担軽減のため、全国平均では自治体1人当たり1万円強を繰り出しているが、栗原市はわずか130円である。財政支出を市民の福祉向上、暮らしを守る方向で執行されることを求め反対討論とする。

賛成 瀬戸健治郎 議員

震災の復旧・復興に全力で取り組みながら財政の健全化にも配慮し、償還利子の減少に努めた結果、平成21年度末公債費残高の減少額は全会計で4億円あまりにのぼり、平成20年度と比べて大きく改善されている。市民が暮らしたい栗原の実現に向けた事業が着実に執行されていることから、決算認定に賛成する。

国民健康保険特別会計の決算認定について

反対 鈴木 道夫 議員

前年と比べ国保税の未収額が増え、資格証明書、短期被保険者証の発行も増えている。依然として国保税が高いことを示している。

最大の原因は、低所得者層の多い国保会計に対する国の負担を削減してきたからである。市長は、相互扶助だから負担は公平に、と言うが、社会保障の理念に立ち、一般会計からの繰り入れを増やすとともに、国の負担を求める姿勢に立つべきであった。その姿勢が認められず反対である。

賛成 三塚 東 議員

市は、被保険者に対する健康の保持増進と医療費の縮減を図るため、各種がん検診をはじめ糖尿病などの生活習慣病の有病者あるいは、予備軍を減少させることを目的とした特定健康診査または、特定保健指導事業を実施するなど、メタボリックシンドロームに着目し、生活習慣病を改善するための保健指導を行っている。

市民の健康意識を高め、医療費の抑制に努力する取り組みを評価し、賛成する。

市は介護保険制度のもと、介護サービス基盤整備を始め、高齢者の生きがい支援や介護予防事業、認知症予防事業に積極的に取り組んでいる。市の高齢化率は31・8%で要支援および要介護認定者は4314人と年々増加している。このような中、高齢者がその能力に応じ、自立した日常生活を営むよう必要な介護サービスを円滑に提供するとともに、安定、かつ、適正な事業運営を推進しているなど、評価に値する。

行政効果を確認

決算特別委員会

議会は決算特別委員会（委員長 高橋正道議長）を設置して、平成21年度一般会計、特別会計、事業会計の予算の執行状況と行政効果および積立金（基金）の運用状況などを審査しました。

主な質疑は次のとおりです。

Q 平成21年度の市税の決算状況と徴収体制はどうなっているか。
A 市税は平成20年度と比較して1億2000万円の減収となっている。また、春と秋の年2回、徴収月間としており、収納率は97・2%となっている。
Q 財政を調整する積立金（財政調整基金）を平成21年度は5億3000万円積み立て、合計42億円となっている。必要な額はどれくらいと考えているのか。

A 合併の時点で46億円だった。今後の財政運営を考えると、40億円は必要と考えている。
Q 強い農業づくり交付金事業として、国産パプリカの生産と供給を目指し、「榎ベジ・ドリム栗原」に総事業費の2分の1、11億2000万円を補助しているが、効果と雇用はどのようになっているのか。
A 栗原産パプリカを全国に発信しブランド化を図り、栗原の知名度を向上させたい。雇用は、今後25人の採用が見込まれている。

Q 学校給食の委託はどこまで進んでいるのか。また、民間に委託した場合のメリットはどのようなことが考えられるか。
A 一迫と鷲沢の給食センターの調理と配送業務をすでに委託している。来年度は志波姫の南部給食センターを委託したい。メリットは、民間の技術的知識を活用して、安全・安心な給食の提供をしたい。

介護保険特別会計の決算認定について
反対 佐藤 文男 議員
 予防介護に力を入れていることは評価する。しかし、平成21年度は、保険料が26%引き上げられた。
 介護認定者は4314人もいるのに施設整備が遅れ、待機者が500人を越えるが、平成21年度の施設整備は33人で根本的な解決にはならない。保険制度でありながら、必要な時に必要なサービスが受けられない。
 真の保険制度を求め認定に反対である。
賛成 佐藤 優 議員
 市は介護保険制度のもと、介護サービス基盤整備を始め、高齢者の生きがい支援や介護予防事業、認知症予防事業に積極的に取り組んでいる。

一般会計補正予算を否決

説明責任
緊急性

本庁舎増改築等設計費に異議



増改築で議論（本庁舎西側とふるさとセンター）

一般会計 9月補正予算の主な内容

- 本庁舎増改築等設計費、施設修繕費 6,531万円
- 児童扶養手当の父子家庭への扶助費 1,869万円
- 高清水保健センター「ほっと館」修繕費 2,550万円
- 予防接種経費 9,365万円
- 金成小中一貫校基本・実施設計費 2,070万円
- 金成小中一貫校建設に備えた基金積立 4億円
- 各小学校施設修繕費 2,450万円
- 耕英分校改修事業費 500万円
- 栗原文化会館、若柳総合文化センター等施設修繕費 4,000万円
- 市道施設等に係る維持補修費 2億6,300万円

9月定例会議の一般会計補正予算案は、平成21年度決算の確定による繰越や当初予算編成以降の事業変更、緊急に予算措置が必要な事業などで、総額26億5818万8000円の計上となりました。

主な補正内容は、「本庁舎増改築等設計費」、「新型インフルエンザ予防接種、小児用肺炎球菌予防接種などの一部助成・子宮頸がんワクチン接種全額助成」、「金成小中一貫校基本・実施設計費」、「公共用地取得基金」などで、4常任委員会に付託されま

した。審議の結果、建設、産業経済、文教民生常任委員会では全会一致、総務常任委員会は賛成多数で可決すべきものと決定されましたが、本会議において本庁舎増改築等設計費2500万円に議論が集中しました。

この件については、平成22年1月に学識経験者や市民で構成された新庁舎建設検討委員会が「新庁舎の建設の必要性は認められないが、狭い本庁舎と駐車場は、住民の利便性向上を図るため増改築を検討すべきだ」との提言を受け、増改築の可能性や費用規模を積算するため計上された予算です。

議論の焦点は、「緊急を要する事業なのか」、「事業等の説明不足」、「増改築規模・事業規模が不透明」などで、議会は異議を唱え一般会計補正予算を否決しました。

9月定例会議での審議結果（意見が分かれた議案について掲載しました）

議案名	議員名	議決結果	採 決 結 果																													
			菅原 勇喜	佐藤 千昭	大瀧 信子	千葉 健司	鈴木 道夫	佐々木 嘉郎	阿部 貞光	佐々木 幸一	佐藤 久義	高橋 正道	濁沼 一孝	沼倉 猛	佐藤 優	相馬 勝義	三塚 東	石川 正運	高橋 義雄	佐藤 勇	欠 員	三浦 善浩	佐藤 文男	佐々木 脩	大関 健一	富塚 正夫	五十嵐 勇	鹿野 芳幸	高橋 勝男	阿部 敏	瀬戸 健治郎	小岩 孝一
市長提案 議案第61号 平成22年度栗原市一般会計補正予算（第2号）		否	×	×	○	○	×	×	○	×	×	○	×	欠	×	×	×	○	×	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	議

※1 議決結果欄の説明は次のとおり 「可」⇒可決、「承」⇒承認、「否」⇒否決、「継」⇒継続審査
 ※2 採決結果欄の説明は次のとおり 「○」⇒賛成、「×」⇒反対、「議」⇒議長、「公」⇒公務、「欠」⇒欠席

臨時議会

否決された補正予算 賛成多数で可決

9月定例議会で否決になった、平成22年度一般会計補正予算と農業集落排水事業特別会計補正予算を、10月臨時議会において原案のとおり可決しました。

9月定例議会で否決された本庁舎増改築等設計費2500万円を含む、補正予算が上程されましたが、「緊急性を要するものか」など前回同様の議論になり、原案に反対の議員から本庁舎増改築等設計費2500万円を除いた修正案が提出されました。
両案にそれぞれ賛成または反対の計8人が登壇・討論し、採決の結果、修正案を否決し、原案を賛成多数で可決しました。

討論実施議員

原案賛成、修正案反対	原案反対、修正案賛成
①阿部 敏 議員	②佐々木嘉郎 議員
③高橋 勝男 議員	④菅原 勇喜 議員
⑤大関 健一 議員	⑥三塚 東 議員
⑦阿部 貞光 議員	⑧佐藤 文男 議員

※数字は発言順となります。

金成小中一貫校建築基本・実施設計委託料 2070万円

平成20年3月に策定した栗原市立学校再編計画に沿って進めてきた、金成地区の金成中学校と小学校5校（金成、沢辺、津久毛、萩野、萩野第二）との最終合意が得られ、金成小中一貫校が誕生するはこびとなりました。総合計画では、現在の金成中学校の増改築と体育館等の改築をする予定でしたが、地区の強い要望があり、校舎・体育館・プールなどすべて改築することとなりました。総工費は概算で約25億円で平成25年度の完成を目指します。今回の補正予算では、基本・実施設計委託料に2070万円（債務負担行為平成22・23年度5370万円）、基金積立に4億円を盛り込みました。

予防接種助成経費 66610万6000円

- 1 新型インフルエンザ**
今年度の新型インフルエンザ予防接種は、季節性と新型の両方を予防する混合ワクチンです。接種対象者や回数により、助成額が異なります。
①小児用肺炎球菌ワクチン
接種1回9500円の2分の1助成（接種回数は年齢により1回から4回）
②ヒブワクチン
接種1回7500円の2分の1助成（接種回数は年齢により1回から3回）
③水痘ワクチン
接種は1回のみで、8000円の2分の1助成。
④流行性耳下腺炎ワクチン
接種は1回のみで、7000円の2分の1助成。
⑤子宮頸がんワクチン
接種は2回で、1万6000円の全額助成。

10月臨時議会での審議結果（意見が分かれた議案について掲載しました）

議案名	議員名	採 決 結 果																														
		菅原 勇喜	佐藤 千昭	大瀧 信子	千葉 健司	鈴木 道夫	佐々木嘉郎	阿部 貞光	佐々木幸一	佐藤 久義	高橋 正道	濁沼 一孝	沼倉 猛	佐藤 優	相馬 勝義	三塚 東	石川 正運	高橋 義雄	佐藤 勇	欠 員	三浦 善浩	佐藤 文男	佐々木 脩	大関 健一	富塚 正夫	五十嵐 勇	鹿野 芳幸	高橋 勝男	阿部 敏	瀬戸健治郎	小岩 孝一	
市長提案 議案第83号 平成22年度栗原市一般会計補正予算（第3号）		可	×	○	○	○	×	×	○	○	○	×	○	○	○	×	×	○	○	○	○	×	○	○	○	×	○	○	○	○	○	議

※1 議決結果欄の説明は次のとおり 「可」⇒可決、「承」⇒承認、「否」⇒否決、「継」⇒継続審査
※2 採決結果欄の説明は次のとおり 「○」⇒賛成、「×」⇒反対、「議」⇒議長、「公」⇒公務、「欠」⇒欠席